

母校への情熱変わらぬ応援団長



中島光夫氏

(高21回)

●なかじま・みつお

上郷生まれ。東京理科大学卒業。清水建設株式会社入社、建築設計担当。油絵は、会社の絵画クラブにて独立美術協会改入江一子先生及び芝浦工業大学柏高校の絵画の会にて江森清先生のご指導の下、2004年公募美術展蒼樹展に出品、入選以降風景を主体に出品している。

中島光夫君は飯田高校を昭和44年に卒業後、東京理科大学を経て、令和2年まで清水建設株に勤め、主に建築設計を担当しました。趣味の絵画は、会社の絵画部

に入部して本格化し、そこで腕を磨きました。自宅アトリエで土日に描くので「日曜画家」と呼ばれているそうです。

彼の絵は所謂、油絵であり風景画を得意としています。十数年前の彼の絵は外国の港町や街並みを題材にしていますが、最近では日本の田園風景や廃屋などを手掛けられています。

趣味の絵画ではありますが、蒼樹会という絵画団体に所属し、年に1度、10月に東京都美術館で開催される「蒼樹展」に毎年出品していますが、2004年の蒼樹展で入選しました。

その後、2006年にイタリアの「フォロ・ロマーノ」で銀賞、2014年に「谷津の小径」で金賞、2018年には「手賀沼の夜明け」で委員会賞を受賞し、今では蒼樹会では主要なメンバーの一人となっています。在京高21回生の間では親しみを込めて「中島画伯」と呼ばれています。

彼のモットーは、自分が感動した風景を描いて、描いた絵を観る人に感動してもらいたいということだそうです。蒼樹

展に出品するためには、100号(約1.6m² × 1.3m²)の大きさが上限となっていますから、「日曜画家」を自認する彼にとって、年1度の蒼樹展への出品は大変なプレッシャーとなっていました。100号の絵画は負担ではあるが、観る人に感動を与えるために、精魂込めて一筆、一筆を大事に描いています。

彼は絵に興じるだけでなく、同窓会や同級会を大事にしています。飯田高校の2、3年生の時は応援団管理委員、3年では管理委員長(團長)を務めました。写真。今は毎年11月開催の在京飯田高校同窓会総会で応援団長を務め

てくれています。



彼は総会が近づくと、自宅近くの手賀沼に行つて、湖面に向かって声を張り上げ応援の指揮の練習をしています。そして本番では瘦身をそり返らせながら力一杯腕を振り、同窓生の気持ちを一つにしてくれています。どの応援歌も指揮していますが、「校歌は手拍子を打つな」と皆を戒めながら指揮を執っています。高校時代から変わらぬ母校への情熱に対し、私達は彼に敬意と期待を寄せていました。

(高21回 大原直)